

平成20年度後学期 学生による授業評価アンケート調査（最終）
「アンケート結果に応じて」

所属部局	人文学部		氏名	南山 浩二
講義コード	2312023010		講義名	家族社会学
開講曜日	水曜日	5/6時限	専門科目 ・ 全学教育科目	
授業回数	15回	休講回数	0回	補講回数 0回 受講登録者数 122人
成績評価に際し注意した事項 最終試験を中心に出席状況・授業時に書いてもらった感想・意見の内容等を総合的に判断。				
報告内容				
<u>A.授業で工夫した点など</u>				
この授業では、家族社会学が扱うトピックをいくつかとりあげ、各テーマごとに1・2コマ程度の時間を割り当て講義を行いました。すべての講義でパワーポイントとスライド内容に準じた穴埋め形式のレジюмеを使用し、教員による講義を聴きながら、受講生が重要な概念や解釈をレジюмеの空欄に書き込んでいく手順で講義をすすめました。また教員が適宜トピックに関わる話題や論点を提供し、小グループごとに議論してもらい、議論の内容の報告もしてもらいました。				
<u>B.アンケートの回答内容について</u>				
(1) 各設問の回答状況				
満足率でみると「授業の主題・テーマが明確である」が97.7%、ついで「授業でシラバスの内容が反映されていた」が90.8%と高く、その他の項目においても88から89%あたりを中心に分布していましたが、他方「板書（PPT等）が読みやすい」が72.4%で最も低く、「学習の雰囲気・秩序を保とうとしていた」が77.0%、「教員の声が聞き取りやすい」が79.3%と、3項目が70%代にとどまっていました。				
(2) 自由回答の記述				
「よかったところ」として、説明がわかりやすく丁寧、穴埋め形式のレジюмеは受講生の参加度を高める工夫としてよい、ダイジェスト版的な構成がよい、レジюмеが網羅的で詳細でよい、家族社会学が多様なテーマを取り扱っていることがわかった、学生同士の話し合いの時間を設けてくれたところがよかった、講義の冒頭で必ず前回の復習があったところがよかった、との回答がありました。改善した方がよい点として「声が聞き取りにくいのでマイクの使用法を工夫した方がよい」「スライドの字が小さくて見えにくい」「授業開始直後の私語をもっと注意して欲しかった」との指摘がありました。				
<u>C.今後の授業展開について</u>				
以上の結果をふまえると、内容やシラバスの的確さ、説明が丁寧であること、資料の充実度、レジюмеの形式、ディスカッションを取り入れた点などについては、おおむね好評であることから継続していきたいと思います。マイクの声が聞き取りにくい点、スライドの字が小さくて見えにくい点などについては、受講生のみなさんの意見を聞きながら改善していきたいと思います。また、授業開始直後の私語の問題については、毅然とした態度で対処していきたいと思います。印象に残っている点は、受講生のみなさんが、ディスカッションの機会に活発に話し合ってくれたことです。授業でもお話ししましたが、授業が終わっても何らかの形で「余韻が残る」講義を今後も心がけていきたいです。学生のみなさんには、講義を単に知識を吸収する場だけではなく、自身の思考と探求を深める機会としても位置づけてもらえればと思っています。				